黒埼町の今昔

町史編さん課

満洲国移民の軌跡（一）

昭和十二年九月、若者は満洲への移民を決意した

日本の敗戦以前、現在の中華人民共和国の北東部に満洲という国があった。独立国とは名ばかりの日本の植民地で、日本から多くの人々が移住した。そこでの生活はけっして楽なものではなかった。しかし、日本の敗戦とともに満洲国は消え、移民たちはさらにつらい目に会わねばならなかった。黒埼町にも、そうした辛酸をなめた人がいた。

昭和15年２月25日付の新潟新聞の紙面。内容については本文を参照のこと。右の写真は記事の写真と同一のものです。

◈昭和十五年の新聞記事から

筆者は昭和初期からの町史資料を収集するため、今年の二月、県立図書館に通って現在の新潟日報の前身である新潟新聞を閲覧していた。

ある日のこと、太平洋戦争を翌年にひかえた昭和十五年二月二十五日の紙面をめくっていた筆者の目に次のような見出しが飛び込んできた。

「青年拓士再出発　好伴侶も得て　曽野木出身斎藤君」

希望に燃えて渡満する若い二人の写真も載っていた。

記事本文を引用する。

「中蒲原郡曽野木村西楚川新田出身斎藤三代次(三六)君は去る昭和十三年の三月、若き熱情のほとばしるところ、遂に意を決して第六次開拓移民団に参加〝われは鍬の戦士〟として勇躍渡満　北安省通北県五福堂の新潟村に入植爾来約二ヶ年間を赤い太陽の没するところ満洲の曠野に起って開拓の道にいそしんできたが旧臘郷の上、その貴い体験談を近郷青少年に紹介して大陸進出熱を煽りたて、ふたたび「大陸へ還る日」二十　日新潟港解纜の満洲丸で帰満することになったが斎藤拓士のこの帰満の日に嬉しや好き半身として後半生の苦楽を共にして大陸に弥栄の道にいそしむ花嫁北蒲葛塚村大字黒山農平吉さん娘小熊スイノ(二二)さん同道の再出発だけに若人二人の感懐や亦一入のものがあるであろう」

注　旧臘…前年の十二月、解纜…出港すること。

中蒲原郡曽野木村西楚川新田は現在の善久である。

◈かつての青年拓士健在

戦後もすでに四十余年の歳月が流れた。満洲国は日本の敗戦とともに消滅し、中国に変わった。その地に残された日本人引き揚げ者の遺児たちが、肉親との再会を求めて、祖国日本を訪れ、テレビなどを通じて訴えている。

この記事を発見したとき、この夫婦のその後が気にかかった。無事に日本へ帰れたのだろうか。子供がもしや残留孤児になったのでは？

図書館から帰って、電話帳を調べると、善久に斎藤三代次さんが実在しておられることがわかった。さっそく連絡を取り、三代次さんも妻のスイノさんもともに元気であることを確認した。満洲で生れた長男三栄さん、次男勝さんも健在である。

三代次さん夫妻からうかがった満洲での生活を語る前に、満洲という国、そこへなぜ移民したかを説明しておかねばならないだろう。

◈満洲国の建国

日清、日露戦争をへて日本は大陸への足がかりを得た。そして、満洲を工業資源の供給地として、鉄道を中心に特殊権益を持つに至った。

昭和六年に満洲事変がぼっ発し、日本軍はまたたく間に満洲全土を占領した。そして、中国側の強い抗議を無視して、翌七月三月一日、清朝の廃帝溥儀を皇帝として満洲国を建国した。

すでに満蒙の権益を日本が手中にしていたわけだが、よその国であってみれば、その支配や活用にもおのずと限度がある。かといって明治四十三年の韓国併合のような形をとれば他の国々が黙っていない。苦肉の策として日本の息のかかったかいらいの満洲国を独立させたのである。

さて、満洲国ができると、国は国策として、「大陸は招いている、狭い土地にしがみついていないで満洲へ行こう」と呼びかけ、「満洲へ行けば広大な土地が与えられ、自分の所有になる」と、満洲熱をあおった。

農業移民できるかどうかを実験する意味もあり、昭和七年九月、在郷軍人を中核とした武装移民約五百人が入植した。その後もこうした移民が続けられたが、現地の農民から武器を取り上げ、土地を安価で強制的に買い上げたので、怒った現地の人々が移民村を包囲し、軍隊が出動して鎮圧するという事件が幾度も起こった。

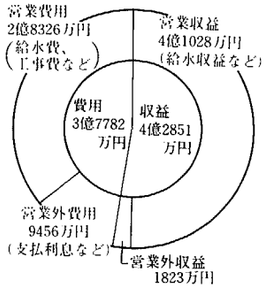
日本政府は「満洲農業移民百万戸移住計画案」を十一年五月に策定すると、翌年から国策として移民が送り出されるようになった。これは経済不況や農村の恐慌で国内での生活が困難になった人たちや新天地に雄飛を志す青少年に格好の夢と希望を与えた。

こうした動きに刺激され、斎藤さんが満洲への移民を決意したのは、昭和十二年の九月半ばのことだった。

執筆・宮田栄門

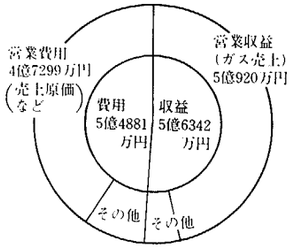
昭和61年度特別会計決算

水道



水道事業会計は５０６９万円の黒字です。給水戸数は６５４２戸、給水量は約284万立方㍍で、前年度より99戸増えましたが、5.5％の減少となりました。これに伴い収益は４億２８５１万円で5.8％の減。費用で給水費、原価償却費などが増えましたが、経費節減に努め黒字となりました。しかし、配水管の老朽化に伴う改善工事を進めなくてはなりませんし、企業債（借金）の残高が13億円近くあるため、水道会計の実状は厳しいものがあります。

ガス

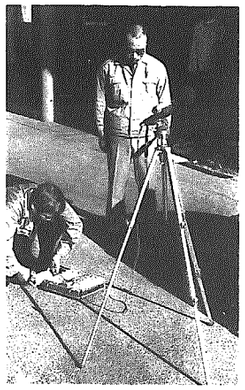


ガス事業会計は47万６千円の黒字です。供給戸数は５９０９戸で前年度より154戸増え、供給量も635万立方㍍で19万立方㍍増加、事業収入は５億６３４２万円で前年度より524万円増え、費用は５億４８８１万円で前年度より3.9パーセント減りました。その結果、１４６１万円の純利益が出て、前年度の赤字が解消されました。しかし、需要の伸びが期待できないこと、ガス管工事や保安に多額の費用がかかることから、厳しい状況です。

町の動き

町内７か所で騒音を調査

―保健衛生課―



十月二十八日、町内各所の環境騒音の測定を保健衛生課が行いました。測定場所は鳥原の諏訪神社境内、善久の住宅地、下山田の高速道インター付近、大野の国道８号線沿線など七か所。

この環境騒音測定は年一回、環境庁の委託によって全国で行われるものです。今回の測定結果は来年の春に発表される予定です。

昨年の調査では国道８号沿線の大野三七〇六（住友生命の前）が六十五から七十一ホンで環境基準を五ホンほど越えていました。

交通死亡事故抑止緊急対策　本部を設置

―総務課―

黒埼町内では、今年に入ってから十一月中旬までに、交通事故死亡者が五人と過去最高の記録となりました。特に十月末から十一月十八日までに三人が亡くなるという異常事態です。

そのため町は十一月二十日から十二月十九日まで交通死亡事故抑止緊急対策本部を設置し、街頭指導や宣伝活動を強化することになりました。

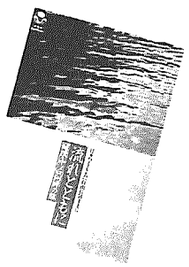
これから年末年始を迎え、路面の積雪・凍結などで交通環境が悪くなり、また忘年会・新年会など飲酒の機会も増えることから、交通事故が多発する時期です。事務局では「飲酒、暴走、一時不停止などの悪質無謀運転をしないことはもちろん、交通ルール、マナーを守って、交通事故を起こさないよう、また会わないよう気をつけて」と、注意を呼びかけています。

広域観光パンフを作製

―総務課―

黒埼町を始め、白根市、味方村など中ノ口川沿線の六市町村で組織している中ノ口川沿線経済振興協議会では、沿線地域の名所や物産などを紹介した広域観光パンフレットを作製しました。

「流れとともに」というタイトルで、カラー写真とイラストマップで地域の名所旧跡、物産などを紹介するとともに、歴史や見どころなども解説してあります。



二万部を印刷、沿線各市町村へはそれぞれ千五百部ずつ配布し、あとは外部へ宣伝のため配られます。

町内では、役場、黒埼荘、北部地区公民館などに置いてあります。お問い合わせは、役場商工振興課へ。

短信（10月15日～11月15日）

10月19日的場緒立区画整理組合打合わせ会（企画開発課）、内外情勢調査会（町長出席）▶19～20日全国町村長中央研修会（東京、町長出席）▶20日新潟ニューメディア協議会講演会（新潟市、助役出席）▶21日入札（総務課）、調理師技術講習会（町長出席）▶22日茨城県岩瀬町農協視察来庁▶22～23日固定資産税評価委員視察研修（北陸）▶24日町村会定例会（巻町、町長出席）▶26～27日議会産業建設委員会研修（入広瀬村）▶28日表彰委員会▶29日農業委員会（農政課）▶11月２日定例課長会議▶４～５日議会厚生企業委員会研修（三条、吉田）▶９～10日議会総務文教委員会研修（分水、津南）▶10日夜の町長室▶11日市町村長サミット（豊栄市）郡教委研修会（改善センター）▶12日七穂排水機場竣工式（味方村、町長出席）▶14日黒中創立40周年記念（町長他出席）

入札結果（総務課）

工事名	工事業者	請負額	入札日	完工期限
黒埼中学校グランド散水設備工事	㈲藤崎設備商会	1,020千円	10月12日	62年10月21日
町道北場善久線補修工事	㈱笠井組	3,600	10月12日	62年12月10日
町道山田10号線改良舗装工事	㈱志賀組	1,500	10月12日	62年11月30日
大明団地公園設置工事	㈱山際総合建設	780	10月12日	62年11月25日
総合庁舎予定地土留壁工事	㈱石附組	3,950	10月12日	63年１月４日
町道寺地善久線ガードレール設置工事	㈱志賀組	2,900	10月12日	62年12月10日
農道205号線、集落排水138号線改良工事	日商総合企業㈱	8,500	10月21日	63年３月15日